

プレジデント・ミッション
2011年度 業務目標

業務全般

2010年度に新設あるいは見直した事業、制度を本格的に運用する。都道府県協会との連携やJFA事務局内の横断的な協働など、これまで以上に積極的なコミュニケーションが必要となる。アクションプラン2015の後半開始の年であることを認識し、より具体的な施策を企画・提案、実施することでプレジデント・ミッションを推進する。

- サッカーファミリー500万人に向け、潜在ファミリーの取り込みと新たな掘り起しを目的とした、これまでの制度に囚われない施策を検討、企画する。
- 都道府県フットボールセンター整備事業が終了することを見据え、今後JFAができて得ることを整理する。
- 各ミッションの中長期的なビジョン・目指す姿をJFA事務局の関連部署で明確にし、各都道府県協会へ発信、共有する。
- 「47FA 公益目的事業等活動支援金」が各都道府県協会において確実に運用されるようサポートする。
- 改訂した業務プラン2013の進捗管理を実施し、短期的な目標や施策へ反映させる。

M 1:「JFA メンバーシップ制度」の推進

- 500万人の計数化対象を決定し、カウントしていくための受け皿・仕組みを整備していく。
 - プレーヤー300万人に向けて、既存の登録カテゴリー以外の新たな受け皿・仕組みを検討する。具体的には、エンジョイ志向のプレーヤーや、プライベート大会・民間施設等でサッカーをするプレーヤー、チーム未所属のスクール生等を対象とした新たな受け皿・仕組みを検討していく。
 - 運営スタッフ5万人に向けて、JFAや都道府県協会をサポートするスタッフはもとより、草の根のクラブ(チーム)を支えるボランティアスタッフ・コーチ等を把握する仕組みを検討する。
- ファン150万人に向けて、日本代表やJクラブを応援するファン(チケットJFA会員や後援会等)の他、草の根のクラブ(チーム)を応援するファンを把握する仕組みを検討する。

M 2:「JFA グリーンプロジェクト」の推進

- 「ポット苗方式芝生化モデル事業」を推進する中で、誰にでもできる安価な芝生づくりを広く啓発し、より一層の芝生化の推進を図る。
- 芝生化に関する総合的な知識を有する人材を養成する。
- 助成年度1ヶ年を残す都道府県フットボールセンター整備助成事業に関して、特に未設置の都道府県に対して、設置に向けた働きかけを行う。

M 3:「JFA キッズプログラム」の推進

- 昨年度のデータをもとに、幼稚園・保育園における巡回指導の実態を数値化し、各都道府県に展開する。
- 幼稚園・保育園等における巡回指導の重要性の理解をさらに深め、積極的な展開を促す。
- 幼稚園・保育園等で初めてサッカーに触れた子供たちが、その後もサッカーを続けることができるように、小学生年代関係者・女子サッカー関係者・フットサル関係者・Jリーグとの協力体制の構築を促し、環境の整備を図る。

M 4:中学生年代の環境充実

- 指導者の負担軽減を目的とした先進好事例を JFA news 等を通じて紹介することで、環境の改善を推進する。
- リーグ戦の支援制度と連携し、リーグ環境を整備することで、引き続き中学生年代の各レベルに応じた環境の中でのプレー機会を確保する。

M 5:エリート養成システムの確立

- 都道府県においてキッズエリート活動が複数の拠点にて定期的かつ継続的に行われる様に、指導者のあり方と自主採算運営に関する情報展開を行う。
- 地域ジョイントミーティングを開催し、情報と活動の交流をより積極的に行える環境作りに努める。
- 各都道府県協会内の組織においてキッズエリートの意義や事業の目的の理解に努め、他種別との連携と一貫指導システムの確立の基盤作りを行う。

M 6:女子サッカーの活動推進

- 各年代において女子選手が継続的にプレーできる環境を整備するため、引き続き、キッズ年代・小学生年代・中学生年代それぞれの関係者や活動との連携を図る。また、少人数や生活圏で行えるフットサルは活動場所や機会の確保に有効であることから、女子サッカーにおけるフットサルの活用を推進する。
- エンジョイ志向のプレーヤーのニーズに応じたプレー機会を提供できるよう検討・企画し、活動の推進を図る。
- 「なでしこビジョン」を積極的に広報し、目指すべき姿の共有を図るとともに、ロードマップの作成や新たな施策の立案に取り組む。

M 7:フットサルの普及推進

- フットサル委員会と協働し、小学校への学校体育にフットサルを取り入れてもらうため、教育機関へ働きかけを行う。
- フットサル委員会を通じて、施設連盟との関係構築を図る。
- フットサル委員会 9 地域訪問会議を活用し、広く情報の伝達・意見交換を行う。

M 8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

- 2012 年度には地域／都道府県の年間カレンダーが統一できるように、多方面から検証し、改善を図る。特に小学生年代の大会については、今年度内に具体的な活動スケジュールを提示する。
- 地域／都道府県協会が実情に応じて競技環境を整備できるように各種リーグや大会への補助金制度を見直す。

M 9:地域／都道府県協会の活動推進

- 各都道府県協会の新法人移行を機に、事業拡大や事務局体制の強化など、基盤整備を積極的にサポートする。
- 交付金制度の変更に伴い、自主財源確保に向けた取り組みが重要となる。好事例を抽出、都道府県協会との情報共有を積極的に行う。
- 地域担当制を用い、今まで以上に都道府県協会との連携を深めることにより、各都道府県の地域性・独自性を発揮できる仕組みを考察する。
- シニア年代の更なる交流機会の増加を推進するため、「競技志向のプレーヤー」とともに「エンジョイ志向のプレーヤー」が一緒に楽しめるフェスティバルや地域性に応じた充実した競技会の開催を推進する。

M10:中長期展望に立った方針策定と提言

- 「JFA 業務プラン 2013」に基づき、半期ごとの進捗管理を行い、「JFA2005 年宣言」に向けた取り組みをより一層推進する。

M11:スポーツマネジメントの強化

- JFA スポーツマネジャーカレッジ(SMC)本講座について、そのあり方を再検討するとともに、2011 年度のカリキュラムを精査し、より良い講座作りに努める。
- 各地で SMC サテライト講座を実施する。
- SMC 入門(仮称)の運用を目指す。
- SMC リフレッシュ講座のあり方を検討し、展開する。
- SMC 広報冊子の展開や JFAnews をはじめとした広報活動を行い、SMC の認知を高めていく。

以上